

## 今週のトピックス

7月7日編集

### ○令和2年「山開き歓喜の集い」開催速報

7月4日(土)～5日(日)の2日間、有峰村民26名(内未就学児7名含む)、講師4名合計30名を迎え「山開き歓喜の集い」を開催しました。初日は、雨天であったため、予定を変更し、樹木園の散策とネイチャーゲームを行いました。樹木園の散策は木内講師主導で行われました。参加者は、木内講師の説明に対し、熱心に傾聴していました。ネイチャーゲームは平野指導員主導の下、実施されました。未就学児も大人に混じって参加され、大変楽しい一時を過ごしました。その後、参加者全員、本日の宿泊先、有峰ハウスにチェックインとなりました。夕食後、木内講師の「山菜のお話」と題した講義を全員参加で聴講しました。

2日目、心配した天候も曇天で、スタッフも安堵しました。参加者は、有峰ハウスで朝食を済ませたあと、猪根平を散策されました。9時にビジターセンターに集合して、山開き交流会を開催、澤田講師の指導の下、わら細工作り体験、注連縄づくりを見学しました。その後、バーベキュー広場に移動し、佐竹講師指導の下、餅つきを行いました。つき立ての餅でお鏡はじめ、雑煮や洋風のジャム餅を作って食べました。お雑煮のお代わりにする人が多くいました。その後、旧別館前にある御神木「有峰大助(樹齢300年のミズナラの木)」に新しい注連縄を取り付け、有峰村民全員で今年一年の安全を祈願しました。午後から、木内講師指導の下、穴洞で山菜を採取しながら学習を行いました。

今年の「山開き歓喜の集い」は、例年より一か月遅れで開催、今年最初の公式行事となりました。新型コロナウイルス感染症対策に配慮し、マスク着用、3蜜の回避等に留意しながら行いました。深緑の有峰で、有峰村民相互の交流・親睦を深めるとともに、春の恵みの山菜も採取しながら学習し、かつての有峰びとが築き上げた森林文化への理解を深めることができました。



### はじまりの会で挨拶する吉江次長



### ネイチャーゲームの説明をする平野指導員



### ビジターセンター内に展示された蝶の標本を閲覧する参加者



### 一列にならんで雑煮材料準備中の参加者



### 餅つきの指導をする佐竹講師



雑煮準備中の様子



安全祈願の様子



美味しそうに雑煮を食する子供達



ふりかえりの会で挨拶する吉江次長



雑煮を配膳する木内講師



御神木有峰大助に奉納される注連縄



講師澤田さんと作品の前で記念撮影

○澤田さんの傑作「しめ縄・わら細工」貸与戴く！  
講師の澤田さんにしめ縄・わら細工（草鞋、深靴、ヨナグニ馬、海老、亀など）を貸与戴きました。亀の尻尾は、丈夫な古代米の稲穂で作ったと苦労話を伺いました。草鞋に添えられていた短冊に書き込まれた短歌「米のなる木でわらじを作りふめば小判のあとがつく」がとても印象的でした。



講師澤田さんと作品の前で記念撮影



講師澤田さんの作品（深靴、草履、野生馬など）



講師澤田さんの作品（海老と注連縄）



講師澤田さんの作品（亀と注連縄）

## ○動物写真家福田俊司氏来館

7月1日（水）日本の著名な動物写真家福田俊司氏が有峰森林文化村ビジターに来館し、著書「カラー版シベリア動物誌/岩波新書」と「写真集鴛鴦（おしどり）/文一総合出版」を謹呈戴きました。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響でロシア・シベリアでの遠征取材ができなくなったとのことで、ツキノワグマのワイルドライフ撮影のため有峰を訪れたとのことでした。6月1日の有峰林道開通当初、既に当ビジターセンターに来館戴き、有峰で多くの熊棚を発見したことを報告戴いた経緯があります。このことが有峰への再来有に繋がったようです。有峰の“真のツキノワグマのワイルドライフ”を取材いただきたいと切に懇願しています。



福田俊司氏との記念撮影



福田氏に謹呈戴いた著書と写真集